

# 原告団

遺族・CO裁  
判、災害責任  
追及、特集号  
第百五十三号

## 原告団レポート

CO患者——  
長谷政人さん

### 語るカルテ

自覚症状—頭痛、頭重、めまい、耳鳴り、疼痛、性欲減、不眠、つかれ易い、いろいろ、物忘れ、集中困難、肩凝り。  
精神症状—寝い多幸。  
神経症状—神経痛(腰反射欠)。  
自律神経症状(発汗)。  
身体症状—高血圧、呼吸器、皮膚(体班)。……ほか省略。

×

右は、昭和四十六年七月一日付で作製された、CO患者の長谷政人さんのカルテである。内容を見るかぎり、彼が、一酸化炭素中毒(CO中毒)症というものであることがあらゆる症状を、一手にひきうけている感がある。

そんな彼なのに、右のカルテが作製された日に五年も先だつ昭和四十一年十月末のこと、それまで給付されていた労災補償(療養給付と休業補償)を、政府(直接には労働省—大牟田労働基準監督署)の手で打ち切られてしまったのである。「一酸化炭素中毒症は固定したので、昭和四十一年十一月一日以降の療養は必要でなくな

### 負う二重苦

彼に、このときの政府の仕打ちがはなとくでできるものではない。た。ほかの多くの患者仲間とともに、さうぞう労災補償審査委員会(福岡)に異議申請を提出したのは当然なことだ。だが、申請はそのまま返されてきた。通知書は書いていた。「本件審査請求を棄却する」。補償打ち切りから、ちょうど一年めだった。

彼は、三池大爆発当時こそ坑内機械工だったものの、以前は長い間採炭工として、文字通り舞う岩粉を身にまみりながら、切羽で働いていた。そのため、いつとも知らぬ間に肺病に冒されることになったのに相違なく、そこにCO中毒までがさらに重なったわけ、いわば彼は、三井より重ねがさね、思わぬ煮え湯を飲まされたことになったのである。

## 珪肺にCO中毒までが

尿をタレ流しながらも、気づかずケロリ

### 労苦に耐え家計をささえる妻



病院にたずねていつたとき、長谷さんは中食をとっていたが、いきなり彼はいつた——「もう、どうもなかつすよ」。あきれて言葉がノドにつまってしまった。

もあつたというが、住んでいる西原町から八キロメートルほど東に離れた平井という富農地帯に早くから畑を借りうけ、もっぱら麦やサツマイモなどを耕作した。そのうえ、彼女はまた市内の某建設業の雑役として働きに出かける。仕事は火力発電所の機械磨き、左官の手伝いなど。往復こそマイクローバスの送り迎えがあつたものの、現場によつては柳川、熊本、久留米、大川など、かなりの遠隔の地にも出かけるのだから、余儀ないことだったとはいへ、労苦が骨身に沁みこんだのは述べるまでもなかつた。

そんな暮らしのなか、アサエさんは夫ともども、見ごとあの三池闘争を闘ったのだった。

### 激痛が頭を

今でこそ天領病院に入院のうえ療養生活をおくっている身だが、それまでは長く自宅から通院、療養生活を続けてきた。気づいたときは遅かった。CO中毒症状は、被災後幾日もたたぬうちに姿を現わしてきた。まず、何となく頭の、いきなり激しい頭痛が襲いかかってくるようになった。

長谷さんは、そんなときは突然「あ痛」と大声をばりあげ、頭をわしつかみにしながら狂い回り出す。すると、アサエさんはその夫の後頭部あたりを、かえって自分の手が痛くなるほどたたいてやわめながらなかつた。

### タレ流す尿

夏も真盛りの、七月二十日の朝のことだった。長谷さんの入院先の天領病院から、電話がかかってくる。聞かされたのは、オロオロする看護婦の声だった。「早く、オシメを持ってきてください。早く、早く」。アサエさんはあふたとオシメを用意して、夫のもとにかけつけた。見ると、ビニールで覆われたベッドのうえに、素裸にされた体が横たわっている彼にびくくり。どうしたのか、その朝から不意に、何の意識もないまま、彼が尿をタレ流すようになってしまったことがわかり二度ビクビク。あきれてしまった。

### 感情の爆発

「じいちゃんが元気だったころは、特に気がつかないました。じいちゃんには脚が悪かったもので、家のなかを歩くときでさえエが要りました。そのじいちゃん、とずうケンカが始まるわけですよ。いらいらがきいているところへ、じいちゃんのこと、とした言い、すから私はすぐ走って行って、主人の体をつかまなければならぬ。そんな彼に、長く診療を続けてきた医師もさすがに、「こまできていられるとは……」と、あきれてしまったという。

### 老いの身で

今、彼の子ともたちは成長を遂げ、それぞれの道を歩いている。だが、彼の将来に心を痛めていたはずの両親はすでになく、彼自身早や六十九歳という老いの身にある。大黒柱の姿のないさびしい家で、妻のアサエさんは末っ子の道男さんと二人で留守を守っているが、ここにもまたひとり、三池大災害裁判勝利の日を待ちのぞんでいるCO患者がいる。